

事業別評価調書 (チェックリスト)

整理番号	1	事業名	十六沼公園北側用地整備事業		補助 単独	地区名 (事業箇所名)	福島市大笹生字組板山 外	担当部課名	教育委員会 保健体育課					
評価を受ける理由	第3条第2項 新規事業				[事業に関する社会経済情勢等] (特記すべき事項) (1) 事業に関連する項目 平成28年度中に東北中央自動車道「福島大笹生 IC」ができることで、十六沼公園への福島県内外からのアクセスの利便性が図られ、さらに多くの利用者が見込まれることから、多くの方が利用できるよう十六沼公園におけるスポーツ環境の整備が必要となってきた。 また、福島市総合計画後期基本計画に位置付けて進めている「2020年東京オリンピック・パラリンピックの関連事業」の誘致または実施に向け、福島市推進本部(本部長 福島市長)を立ち上げ、サッカーを含めたオリンピック競技の事前合宿誘致等に積極的に取り組んでおり、国際競技連盟の基準の一つである天然芝のサッカーコート2面が整備されることで、事前合宿の誘致活動を世界各国に対して積極的に展開することが可能になる。 さらに、本市を拠点に活動する福島ユナイテッドFCの活動環境の充実を図ることができ、福島ユナイテッドFCの技術向上につながる。 (2) 地元住民・受益対象者の意向 長年、笹谷・大笹生地区自治振興協議会より市道川子坂・明神町線の拡幅について要望しているが、市道を拡幅整備し、十六沼公園の北側出入口として利用することで、新たなアクセス道路が確保され、近隣住民の利便性が図られ、十六沼公園周辺の渋滞が緩和されることを期待している。 また、天然芝サッカー場が整備され全国規模の大会等が開催されることで、県内外からの交流人口が拡大し地域の振興・活性化につながることを期待している。 (3) 関係機関・団体の意向 現在、福島市におけるスポーツ少年団の登録者数及び中学校部活動の加盟人数はサッカーが他の競技と比べて多い状況にあり、十六沼公園のサッカー場の利用については、利用希望団体はかなり多く、抽選で利用日時を決定しているため、練習枠を十分に確保できていない団体もあることから、サッカーコートの増設を希望する声も多く出ている。 また、福島市内には天然芝のサッカーコートが少ないことから、天然芝のサッカーコートが整備されることで、子どもをはじめ多くの方がサッカーに親しむ環境が整備され、福島市のスポーツ振興や生涯スポーツが推進されることを期待している。 さらに、天然芝のサッカーコートでプレイできる喜びや天然芝の感触を感じながら試合や練習をすることで、技術レベルの向上にもつながる。 [事業に関連する評価指標等] (1) 主要な評価指標 ●十六沼公園におけるサッカー場利用者数 平成31年度 22万人 (利用者数実績) 平成22年度 134,352人 平成23年度 71,569人 平成24年度 70,937人 平成25年度 134,473人 平成26年度 177,370人 平成27年度 181,342人 ●サッカー場利用回数(件数) 平成31年度 3,400回 (利用回数実績) 平成22年度 2,080回 平成23年度 1,367回 平成24年度 1,340回 平成25年度 2,557回 平成26年度 2,807回 平成27年度 2,768回 (2) その他特記すべき事項 ●2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける事前合宿の誘致 ●全国レベルの大会・合宿の開催									
根拠となる項目 (○をつける)	要綱	第3条第1項(1) 事業採択から5年経過した時点で未着工の事業	第3条第1項(2) 事業採択から10年を経過した時点で継続中の事業	第3条第1項(3) 評価実施から5年経過した時点で継続中の事業						第3条第1項(4) 計画変更を行おうとする事業(軽微なものは除く)	第3条第1項(5) その他社会経済情勢の変化に伴い評価実施の必要が生じた事業	○	第3条第2項 事業に係る予算を新たに措置し、又は事業に着手しようとする事業	第3条第3項 本要綱と異なる対象事業案件が通知された国庫補助事業等
事業根拠法・要綱等の名称	[事業目的及び全体計画] (1) 事業目的 十六沼公園におけるサッカー場利用者数は平成27年度181,342人で、震災前と比較して5万人程増加している。 現在、十六沼公園には人工芝のサッカーコートが2面、クレーコートが1面、計3面設置されているが、今後ますます利用の増加が見込まれる。 さらに、全国大会等の開催や一流チームの合宿を誘致しやすい環境を整え、高いレベルの試合や練習を間近で見られる機会を増やすことにより、見る人に夢や感動を与え、県内外からの交流人口の拡大や地域の振興、活性化を推進することが期待される。 これらの状況を踏まえ、天然芝のサッカーコートを新たに2面整備していく。 天然芝のサッカーコートが整備されることで、子どもをはじめ多くの方がサッカーに親しむ環境が整備され、福島市のスポーツ振興や生涯スポーツが推進されるほか、青少年が天然芝のサッカーコートでプレイすることにより、日本代表への夢の醸成や各全国大会出場への動機づけとなり、競技力の向上につながることを期待される。 (2) 全体計画 ①事業期間 平成28年度～平成30年度 平成28年度・・・サッカー場実施設計、北側市道実施設計 平成29年度～平成30年度・・・サッカー場整備工事、北側市道拡幅工事 ②事業概要 ●天然芝サッカーコート(105m×68m)2面 ●排水施設整備 ●スプリンクラー給散水設備 ●照明灯 ●管理用通路 ●駐車場 209台(うちバス4台) ●北側市道改良工事 (3) 関連事業の状況													
事業概要の概要	事業採択予定年度	平成28年度	完成目標年度	平成30年度										
	全体事業費	計画事業費(うち用地費)	財源別内訳又は負担割合							主要事業種目別積算内訳				
		1,131 百万円 ()	国 県 市 1,063 百万円 其他 (68 百万円)	・設計業務委託 42,000 千円 ・グラウンド整備費 655,329 千円 (排水施設、外構、駐車場整備費 含む) ・機械設備費 141,000 千円 ・電気設備費 220,000 千円 ・北側市道拡幅改良工事費 71,754 千円										

事業別評価調書(チェックリスト)

費用対効果分析等	<p>【費用対効果分析等】</p> <p>(1) 手法</p> <p>(2) 費用対効果の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー場が現在の3面から5面に増えることで、多くの団体が利用できる環境を整備しサッカー競技の振興が図られる。 ・天然芝のサッカーコートが整備されることで、子どもをはじめ多くの方がサッカーに親しむ環境が整備され、福島市のスポーツ振興や生涯スポーツが推進される。 ・天然芝のサッカーコートがあることで、全国大会等の開催や一流チームの合宿を誘致しやすくなり、大会や選手を見学に来る人など多くの方々の来場が増えることにより、近隣の宿泊地や観光地への滞在者も増加し交流人口の拡大が図られ、地域経済の活性化にもつながる。 ・将来を担う子どもたちが、全国規模の大会や一流選手のプレイを間近で見る機会が増えることで、子どもたちに夢や希望を与えることができ、また実際に天然芝のサッカーコートでプレイすることにより、スポーツ選手の育成、競技力の向上につながることを期待できる。 ・国際競技連盟の基準の一つである天然芝のサッカーコート2面が整備されることで、オリンピックの事前合宿の誘致活動を世界各国に対して積極的に展開することが可能になる。 ・本市を拠点に活動する福島ユナイテッドFCの活動環境の充実を図ることができ、ホームタウンとしての支援につながる。 <p>【費用で特記すべき事項】</p> <p style="margin-left: 20px;">天然芝サッカーコート利用収入 年間 5,184,000 円</p> <p style="margin-left: 20px;">天然芝サッカーコート維持管理経費 年間 20,000,000 円</p> <p>【需要効果で特記すべき事項】</p> <p>市道川子坂・明神町線を拡幅し、十六沼公園の北側出入口として利用することで、新たなアクセス道路が確保され、近隣住民の利便性が図られ、十六沼公園周辺の渋滞が緩和される。</p>	国・県・市・民間との役割分担	<p>【市が事業実施主体となるべき理由・必要性】</p> <p>福島市総合計画後期基本計画や福島市教育振興基本計画において「スポーツ・レクリエーションの振興」を掲げ、生涯スポーツの推進、競技力の向上、スポーツ施設の整備充実に取り組んでおり、今回天然芝のサッカーコートを整備することで、子どもから高齢者まで多くの方がサッカー競技のみならず、運動や体を動かすことのできる環境を整備し、市民スポーツの振興や生涯スポーツの推進を図っていく。</p> <p>【その他特記すべき事項】</p> <p>日頃、天然芝のサッカーコートで試合を行っている福島ユナイテッドFCによるサッカー教室等を開催して若年層の選手の競技力向上を図る。</p> <p>福島市として2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるサッカーを含めたオリンピック競技の事前合宿誘致等に取り組んでいる。また、海外チームの事前キャンプを誘致することで、本市の復興の姿を国内外に発信し、風評払拭と復興の更なる加速化の契機となる。</p>						
	コスト削減等の可能性	<p>【コスト削減に向けた検討状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィンターフィールド(改良コウライ芝)を使用することで、一般的なコウライ芝に比べ伸びが早く、擦り切れ耐性や踏圧性も高いことから、維持管理費用の節減を図る。 ・他の公共事業の建設残土を利活用することで、造成工事でのコスト削減を図る。 ・サッカー場の造成と道路改良を同時に行うことでコストの削減を図る。 ・JFAグリーンプロジェクトを活用し、芝生の苗の提供を受けることでコスト削減を図る。 <p>【その他特記すべき事項】</p>	市民の参画	<p>今回、整備するにあたり、市道の拡幅など地域からの要望もあることから、地元の住民の方々と十分に協議、説明しながら事業を実施していく。</p> <p>全国規模の大きな大会等が開催される際には、地域の方やスポーツに関心のある市民の方々に運営に参加していただき、地域振興やスポーツ振興に協働で取り組んでいく。</p> <p>また、JFAグリーンプロジェクトにより提供を受けた、芝生の苗を市内スポーツ少年団など子どもたちをはじめ、市民と協力して苗の植え付け作業を実施していく。</p>					
		総合評価	<p>【総合評価と対応方針案】</p> <p>(1) 総合評価</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>天然芝のサッカーコートを2面を利活用することで、より多くの方がサッカーに親しむ環境が確保されるほか、子どもから高齢者まで多くの方がサッカー競技のみならず、運動や体を動かすことのできる環境が整備され、市民スポーツの振興や生涯スポーツの推進が図られる。</p> <p>また全国大会等の開催や一流チームの合宿を誘致しやすくなり、来場者が増加することで近隣の宿泊地や観光地への滞在者も増え交流人口の拡大が図られ、地域経済の活性化にもつながる。さらには、高いレベルの試合や練習を間近で見る機会が増えることで、子どもたちに夢や希望を与え、実際に天然芝のサッカーコートでプレイすることにより、スポーツ選手の育成、競技力の向上につながることを期待できる。</p> <p>市道川子坂・明神町線を拡幅し、十六沼公園の北側出入口として利用することで、近隣住民の利便性が図られるとともに、十六沼公園周辺の渋滞緩和も期待できる。</p> <p>オリンピックの事前合宿等の誘致活動を世界に対して積極的に展開することが可能になることで、本市の復興の姿を国内外に発信することができる。</p> </div> <p>(2) 対応方針案及び今後の事業の進め方</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">対応方針案</th> <th style="width: 80%;">新規着手</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>今後の事業</td> <td>平成28年度・・・サッカー場実施設計、北側市道実施設計</td> </tr> <tr> <td>の進め方</td> <td>平成29年度～平成30年度・・・サッカー場整備工事、北側市道拡幅工事</td> </tr> </tbody> </table>	対応方針案	新規着手	今後の事業	平成28年度・・・サッカー場実施設計、北側市道実施設計	の進め方	平成29年度～平成30年度・・・サッカー場整備工事、北側市道拡幅工事
対応方針案	新規着手								
今後の事業	平成28年度・・・サッカー場実施設計、北側市道実施設計								
の進め方	平成29年度～平成30年度・・・サッカー場整備工事、北側市道拡幅工事								